

# 発問の工夫、書く活動の工夫に力点を置いた「考え、議論する道徳科の授業」

大田川 真志（延岡市立南中学校）

## 授業のポイント

本実践においては、発問や書く活動を工夫し、生徒の問題意識を生み出したり、生徒が自ら考えを整理したり深めたりすることを目指した授業を行いました。

指導においては、発問を工夫したり、図や思考ツールを用いた書く活動を設定したりしました。また、生徒の変容を見取れるような書く活動を工夫することで、評価に生かせるようにしました。

## 授業の実際

(1) 主題名【教材名(出典)】 礼儀の大切さ【秀さんの心（光村図書）】

(2) ねらい

礼儀の意義を考えることをとおして、礼儀は相手に対して尊敬や感謝等の気持ちを伝えるものであるとともに、人間関係や社会生活を円滑にするために大切にされてきた文化であることに気付き、時と場に応じた適切な言動をしようとする道徳的な実践意欲や態度を養う。

(3) 本時の展開

**導入** 礼儀という価値に向き合わせ、問題意識を生み出す。

ア ICTを活用し、「礼儀が大切にされるのはなぜか。」という問いに対するアンケート結果や、企業が求める社員像を提示していくことで、生徒の礼儀に対する価値観と実社会で求められる人物像とのズレに気付かせ、一人一人が問題意識をもてるようにしました。

イ 「礼儀の大切さをどの程度理解しているか。」と問い、自分なりの理解の度合いを♡図上に示させることで、授業スタート時に自己評価させるとともに、礼儀という価値に焦点を当てて考えられるようにしました。

◆ 指導のポイント

礼儀についての生徒の価値観を提示する際には、理解していることだけでなく、矛盾や難しさを感じていることも共有できるように配慮しました。また、本時に考えていきたいテーマを発表し合った後に、学級全体で考えるテーマを立て、個人の問題意識が学級全体のテーマへとつながっていることを感じられるようにしました。

**展開** 教材に描かれた事例を基に、礼儀に対する価値観を深める。

ア 「挨拶もできないようじゃ、一人前の職人になれんぞ」という登場人物の言葉を「理解できるか」と問い、思考ツールを用いて考えさせることで、二者択一では選びにくい問いに対する考えを整理しながら、礼儀に対する価値観を見つめられるようにしました。

イ 上記の話合いを踏まえ、礼儀が昔から大切にされてきていることに改めて気付かせた上で「なぜ、礼儀という文化が守られてきたのだろうか」と問うことで、礼儀に対する価値観を深め、礼儀の意義について深く考えられるようにしました。

### ◆ 指導のポイント

文章で記述するだけでなく、図をかかせて視覚化するなど、考えを整理しやすいように配慮しました。また、ア→イの順に発問を構成し、生徒自身が価値観を深めたり、礼儀の意義について考えたりできるように配慮しました。

### 【終末】 学習の全体を俯瞰し、自分なりに学びをまとめる。

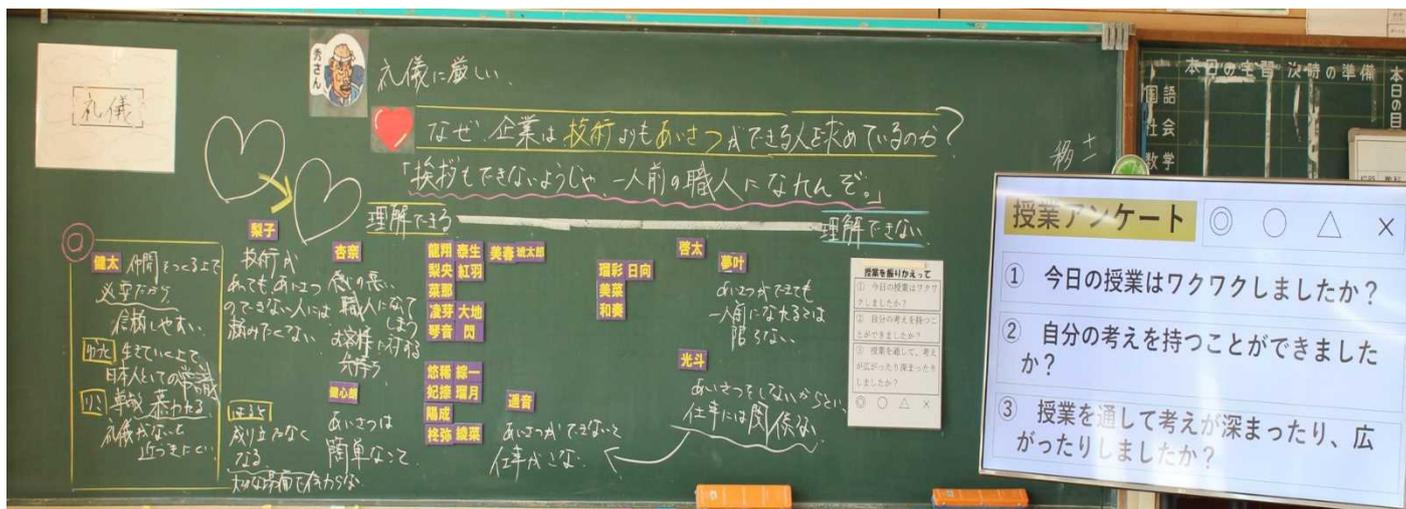
ア 導入時の「礼儀の大切さに対する理解度」を再度問い、授業を終えた時点での理解の度合いを♡図上に示させることで、生徒自らが授業スタート時の自己評価と比較しながら本時の学びのよさや意味等を実感できるようにしました。

イ 本時学習した内容について、板書を基に振り返った後、「今日の授業で考えたことや学んだこと」というテーマで自由に感想をまとめさせることで、授業全体をとおして考えたことを自分なりの言葉や図などでまとめることができるようにしました。

### ◆ 指導のポイント

授業後の自分なりの理解度や感想を視覚化させたり、言葉や図で整理させたりする際には、本時の学びや礼儀という価値に正面から向き合うための時間を十分に確保するように配慮しました。

## (4) 板書



## 評価のポイント

授業前のアンケートと授業後の生徒の感想の記述から、授業をとおして広がったり、深まったりした生徒の価値観を見取るようにしました。また、導入時と終末時の♡図の違いについても、生徒の記述と合わせて評価の材料としたり、授業後や休み時間等に♡図を表した意図を生徒に聞いたりしながら記録を取っておくことで、評価の根拠となる資料として活用できるようにしました。

## 授業を振り返って

「礼儀」という内容項目に限らず、生徒一人一人の道徳的価値を深めたり、広げたりするためには生徒の実態を把握し、教材のもつ特質を理解したうえでねらいを設定することが大切だと感じました。今回の経験を生かし、効果的な指導方法が実践できるように自己研鑽を図りながら、生徒一人一人のよさを伸ばせるような道徳授業を追求していきたいです。



本授業のダイジェスト動画はこちら  
ログイン及びパスワードは各所属に  
通知しています。